

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム 泰葉 A棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6番地1		
自己評価作成日	令和元年5月13日	評価結果市町村受理日	令和元年8月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和元年6月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季の変化を肌で感じられる様な場所で、近隣には民家も多く地域の方からの協力を得やすい環境にある。ホームでは食事を美味しく摂っていただく為に、冷凍食品を使用せず旬の物を取り入れ利用者様の要望を伺いながら出来るだけ要望に添ったメニューを取り入れ食事を提供している。健康面では平均年齢が90歳で高齢者が多く、活動面で無理をしないよう心がけ、一般状態のチェックをこまめに行い、体調変化の早期発見、早期対応に努め、医療職との連絡、連携を密に行っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは住宅地の中にあり、設立15年を迎え地域に溶け込み信頼を得、交流が深まっている。ボランティアの訪問は多く、運営推進会議委員を介して、地域の100歳体操へ参加したことで子供会行事へも誘われている。ホームの避難訓練へ婦人部消防団が参加し、婦人部の声掛けで地域消防団から訓練の参加協力の申し入れがあるなど連鎖的に交流の輪が広がっている。管理者の「命を預かっている」意識は強く、職員が避難経路を判断できるように、毎月の自主訓練は火元を毎回変え取り組み、実際の水害の避難時に混乱はなく成果が表れている。食事は、利用者がその日の食べたい食材を買いに行き、社長自らが調理し喜ばれている。利用者別のレクリエーション活動は家族的な助け合いや労りを生みだし、職員は笑顔の支援を心掛けている。理念の具現化に取り組んでいるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し管理者、職員全員が共有している。利用者様の言葉を傾聴し、温かい言葉かけを行いながら食事の準備や洗濯物たたみ等、職員と一緒にいる。又、近所の方に気軽に立ち寄っていただき交流ができるよう努めている。	理念は各ユニットの玄関に掲示している。理念の「家庭的な生活」に沿いながら、家事仕事など自立を見守り支援している。職員の明るく和やかな言葉掛けはホーム全体に浸透し、利用者がリビングで寛ぐ時間が増えている他、利用者同士が寄り合う様子など、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方や町内の役員、地域婦人会、幼稚園、病院、行きつけのお店など交流している。	自治会に加入し、地域行事や幼稚園の運動会に参加している。近隣から差し入れがある他、小学生の立ち寄り等日常的な交流がある。紙芝居やハーモニカ等ボランティアの訪問も多い。地区の100歳体操への参加がきっかけとなり、出席者の紹介で今年度子供会の行事にも出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流を通して車いすの方のケアの方法や認知症の理解を得る為に、認知症の特徴や対応等を伝えている。又、運営推進会議で現状や重度の認知症の方の支援方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様へのサービスの状況、ヒヤリハット、取り組み状況等について報告、話し合いを行い出席者の方々より、様々な質問や改善策等についてアドバイスや意見をいただきサービス向上に活かしている。	会議は年6回、規定の構成メンバーにより開催している。家族代表の意見から会議の目的や内容の説明を会議中の写真付きでホームだよりに掲載し、新しく家族の参加が増加している。また、地区の体操教室の利用を開始するなど、参加者からの意見や情報等を収集し役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	佐世保市長寿社会課、生活福祉課と連絡を密に取り、問題が生じた場合は、内容の報告や質問、疑問点などを積極的に伝え協力を得ている。	行政からメールやFAXによる連絡が届いており、情報を共有している。市の福祉課の職員による定期的な訪問や行政から案内がある研修を職員が受講している。日頃から、市、支所双方にホームの手続きや不明な点を問い合わせ、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者およびすべての職員が禁止となる具体的な行為を把握している。毎月1回会議で身体拘束がないを振り返り、疑問点などを話し合っている。又、役員が職員に対して聞き取りを行ったり、定期的に会議を行い身体拘束がないようにしている。	管理者は3ヶ月毎に開催する身体拘束委員会で研修を実施し、また、毎月の職員会議で議題に挙げ、職員への周知を図っている。センサーマットの使用は無く、言葉の拘束はその都度管理者が指導し、職員同士でも注意し合うなど拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送りや月1回の会議で、虐待防止について資料などを学び学んでいる。日頃のケアの中で職員間での気づき、疑問点などを話し合い、利用者様に対しての言葉使いや表情など、精神的虐待につながらない様、注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修へ参加し、職員全員へ内容を報告し伝えている。家族がいない方や家族が高齢な方で、判断力や理解力が困難な方がおられる場合は、成年後見制度の活用について話し合いを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所、退所時に十分な説明を行い理解を得ている契約の内容の変更があった場合は、契約書を作成し不安や疑問点を訪ね、説明を行い理解、納得していただいている。何か質問等があれば、いつでも連絡をして頂くよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には、支援の中で要望を伺い、可能な限り取り入れている。ご家族様には、面会時に要望や意見などを伺ったり、ホームの玄関に意見箱を設置し、投稿していただくようにしている。最近では、施設周囲の整備を行った。	苦情の窓口や処理手順は明文化し、契約時に家族へ説明している。意見箱の設置や面会時には声掛けや話しやすい雰囲気づくりに心掛け、意見要望の抽出に努めている。また、今年度は敬老会時に家族会の実施を計画している。玄関前の段差解消や駐車場のミラー設置など家族意見の反映がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特別に機会は設けていないが、普段から職員に要望や困り事がないか聞いている。仕事に支障が生じる場合は、早急に対応している。	職員は、毎月の会議や業務の中で、要望を出している。社長と職員間は良好で、話しやすい関係性があり、気になる職員は個別に面談を行っている。ホームは職員の外部研修やスキルアップを支援し、質の向上に取り組んでいる。シャワーチェアの購入やLED照明の導入など職員意見の反映がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する実績や勤務状態を把握し給与に反映させている。又、キャリアアップの為に研修費用の補助を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの実際と力量を把握し、個人の實力に合った研修、もしくは不足部分に対しての外部研修を受講してもらっている。ホーム内研修においてはスタッフ全員が共有すべき内容やケアに対して学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グルーホーム協議会、北部ブロックⅡ会議など、出来る限り参加し、情報交換や交流を行っている施設訪問活動は、現在行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉に耳を傾け、困っていること、不安な事などを伺い、寄り添いながら不安なく落ち着いて生活して頂けるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常にご家族様の意見を伺い、要望に耳を傾け、満足していただけるよう、コミュニケーションを密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の現状と問題点などを把握し、ご家族様の要望も取り入れ、まず一番必要な支援は何かを検討し見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様を人生の先輩として尊敬し、色々な事を教えていただいたり、一緒に作業を行ったりして支え合いながら生活をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診時の連絡を通して、現状を伝えたり、意向を伺いながら、ご家族様と一緒に支えていける関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長年交流があった方には、面会が途切れないような雰囲気作りを心がけ、出来る限り来所していただけるよう、言葉かけをしている。馴染みの場所は要望があれば支援している。	面会には家族や親戚、同級生、自宅近所の友人などが訪れ、毎月神父の訪問がある利用者もいる。職員は利用者の生活歴を把握し、年賀状発送の手伝いや老人会の催しや馴染みの美容院へ同行している。また、野菜作りやギター演奏、編み物など在宅時代の趣味など馴染みの継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	明るい雰囲気作りに心がけ、言葉が少ない方や難聴の方などは、スタッフが介入しコミュニケーション支援をしている。利用者様の関係を把握し、状況に応じて席替え等も行っており、楽しく穏やかに過ごして頂けるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も気軽にホームへ立ち寄っていただき相談を受けたり、その後の状況を電話で伺ったり困りごとがないか伺いフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉に耳を傾け、思いや意向、要望等を伺いサービス計画時に反映させている。又、自分の思いを表現出来ない方に対しては、ご家族様よりこれまでの生活歴や好み等を伺い、支援に活かしている。	職員は日々の支援の中で、利用者の表情を読み取り、そっと触れる等交えながら思いを聞き取っている。難聴の場合は筆談を利用している。利用者が楽しみを持てるよう、個別のレクリエーションを取り入れている他、利用者との会話の中で希望する食材が出ると購入し提供する等、本人本位に支援を行っていることが確認できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、これまで利用されていた施設職員より情報を提供していただいたり、知人の方より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状は、一日中傍で観察しており、身体面ではバイタルチェックを行い、職員全員が共有し把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向を伺い、様々な情報を把握した上で会議を開き、スタッフ間で意見交換を行い現状に適した介護計画を作成している。	利用開始に1～3ヶ月の暫定プランを立て、長期6ヶ月・短期3ヶ月の介護計画を作成している。毎月のカンファレンスと3ヶ月毎のモニタリングにより見直しを行っている。家族の希望は面会時や電話にて聞き取り、計画に反映している。ただし、介護日誌や業務記録等の項目に重複がある他、ケアの実践において記入漏れが見られる。	日々の様子やケアの実践等を効率よく、確実に記録し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしていくことが望まれる。重複する様式の見直しや記入漏れの対策等、更なる改善に向けた取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子、身体状態は漏れなく個人記録に記入し職員間で情報の共有はできており介護計画の見直しに活かしている。しかし、ケアの実践は行っているにもかかわらず記入漏れが多く見られるため、今後の課題とする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状況をできるだけ把握し、課題がある場合は、面談を行い話し合っている。意見や要望を伺い理解を得ながら、支援やサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ある程度は把握しているが、まだ足りないと思う。地域の方との交流では心身の力を発揮できるように支援している。利用者様からの要望がない為、外出の頻度が少なくなっている。豊かな暮らしが出来ているかは今後の課題である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族様の希望を伺い、長年通い続けて来られた病院への受診が継続出来るよう支援している。又、主治医への状態報告や、体調変化時の上申、指示を仰ぐなど、連絡、連携を行い、いつでも相談できる関係を築いている。	かかりつけ医を継続しており、職員が支援し、結果を家族に伝えている。専門医等家族対応の際は、家族へ事前に情報提供し、結果報告も受けている。看護師が常勤し夜間急変時は協力医の指示がある。ただし、急変や事故発生時の対応において、職員による定期的な訓練を行っておらず、マニュアルの整備も不十分である。	利用者の急変や事故発生時に備えた実践力を身に付けていくためにも、全職員による初期対応等の定期的な訓練の実施とマニュアル等の整備が望まれる。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入居者の方の変化や、異常を感じた場合は、看護師へ相談後、指示に従い受診が必要であれば、受診の対応をしている。又、看護師より薬の変更や指示があれば、全職員が共有し徹底している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は頻回に面会へ行き、言葉かけをして元気づけている。看護師や主治医へ状態を伺ったり、ソーシャルワーカーと連絡、連携し退院へ向けての話し合いを行っている。日頃から看護師や医師とはコミュニケーションも多く、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ホームでは看取りを行っていない為、重度化した場合、主治医が医療処置が必要で、今後、ホームでの生活が困難と判断された場合は、病院の対応となる旨を十分説明し、理解を得ている。	ホームとしては看取りを行わない方針であり、重度化した場合の指針を、入居時に家族へ説明し同意を得ている。利用継続が困難になった場合は、家族の意向に沿えるよう、主治医を交えて医療機関への入院などを説明し、協力を行う体制を取っている。前回の評価後、指針に即した内容へ改正した同意書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応について、会議や申し送りで伝えているが、定期的な訓練は行っていない。急変時は一般状態のチェック後、状態を看護師、管理者、ケアマネへ報告し対応している。緊急時はすぐに救急車で病院へ搬送している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回の火災訓練、年1回の水害避難訓練を実施し、地域の協力を得ている。又、自主避難訓練を毎月1回行い、全職員が見につけている。火災防止の為、毎日、自主点検表を用い、チェックを行い、安全管理に努めている。	年2回、消防避難訓練を消防署立会い・夜間想定で、年1回水害訓練を実施している。地区の婦人消防隊等が参加しており、地域との協力体制を築いている。毎月自主避難訓練も継続しており、様々な想定内容が確認できる。今年度、大雨により消防署の応援を受け、水害避難を行った実例がある。非常持ち出し品、備蓄の整備もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損わない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、不快感や傷つけるような言葉を発しない様、日頃から注意して対応している。身体拘束委員会役員は、職員に対して身体拘束虐待につながるような言葉かけや対応がないか常に観察し勉強会で指導している。	排泄支援や入浴支援時には、羞恥心に配慮した対応や言葉掛けを心掛けている。また、利用者の尊厳や人格を損なわない支援に努め、職員同士で注意し合っている。個人情報の保管は適切であり、取り扱いには写真掲載を含め、契約時に同意の署名を得ている。職員は採用時に守秘義務の誓約書を提出し、理解している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の思いを引き出すような言葉かけやジェスチャー、筆談を用い自己決定できるように支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	高齢者が多いこともあり、その方のペースや体調に合わせ、希望を伺いながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	寝ぐせの髪を整えたり、自分で洋服を選べない方には、その方に合った服を選び喜んでいただいている。汚染がある場合は、すぐに清潔な物に取り替えている。外出時は、スカーフや帽子でおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に食べたい物などを伺って、出来る限り希望を取り入れた食事を提供できるよう努めている。食事の手伝いが出来る方には、体調を見て玉ねぎの皮むきやゴボウ削ぎ、洗いの等を職員と一緒にやっている。	献立は、当日に当番職員や社長もシフトに入り決めている。食材は毎日購入し刺身など利用者の要望は、その日の献立に取り入れ喜ばれている。利用者は野菜の下ごしらえや食器洗いなど出来る場所を手伝っている。誕生日はちらし寿司やケーキで祝い、おにぎりの出前をとるなど食事を楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は一日最低5回は必ず確保し、それ以外でも自由に摂れるよう、声かけをしている。毎日食事量のチェックを行い、体重の管理をしている。一人ひとりの状態に応じた食事形態、食器類を工夫し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夕は一人ひとり付き添い口腔ケア（ブラッシング）の支援をおこなっている。昼はうがいをしていただき、口腔内に残差物が残っていないか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけハビリパンツ、パット、オムツ使用が減るように、早めのトイレ誘導を行い、失敗が少ない方は、布パンツを使用いただき、排尿の失敗が軽減できるよう支援している。トイレでの動作がスムーズにできるよう廊下の歩行練習をしている	職員は、利用者の排泄の意思を尊重し誘導を行っている。また、利用者の羞恥心や気分を損なわないように、職員間で統一した声掛けを行っている。円滑な排泄動作の維持、改善に向け、歩行訓練を導入したり利用者の排泄状況を基に、適したパッド類や支援方法を検討する等、排泄の自立支援を理解し、取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握し、水分量を確保したり、果物、牛乳、ヨーグルト、芋等のおやつを工夫し提供している。ラジオ体操や足踏み運動、歩行などを促し運動不足にならない様にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	香りつきの入浴剤の使用や、着替えの洋服を選んで頂く、又、入浴中に一緒に歌を唄ったり、利用者様の好きな音楽を流し、リラックスして入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は週2回を基本としているが、入浴日以外でも状況によりシャワー浴を行っている。車椅子の利用者も浴槽へ浸かっている。入浴のない日は清拭を行っている。入浴拒否は時間や声掛けの職員を変え対応している。入浴剤やゆず湯、音楽を流したり、歌を歌ったり、入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の環境を整え、暑さで寝苦しいと訴えがある方に対しては、アイスノンを使用したり、信仰の深い方には、寄り添い一緒にお祈りをしたり、話を傾聴したり等、その時々状況に応じて対応し、安心して休んでいただくよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ薬の副作用は把握できているが、全員把握はできていない。用法や用量は薬表を確認し、看護師の指示のもとに、服薬管理を行っている。服薬後は、常時観察を行い、少しでも変化があれば、看護師へ報告し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、長年続けて来られた編み物や野菜作り、嗜好品では、コーヒー、饅頭、好みの飲み物など提供している。掃除や洗濯物たたみなど本人様が自分で出来ることは積極的に活動されている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば戸外へ外出している。家族と一緒に教会や食事へ行かれたり、職員と一緒に知人宅へ花見に行ったり、鯉の見学や、近隣の子供達とのふれ合いなど、協力を得ながら支援している。	利用者の体調などで全員揃っての外出は厳しいが、桜の花見など車椅子の利用者も一緒に出掛けている。地域の公民館の100歳体操へ毎週参加したり、地域行事へ出掛けたり、散歩やスーパーへの買い物など、個別の外出は日常的に支援している。希望に沿えないときは家族の協力を得ながら外出支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が認知障害があり、お金を所持しても置き場所を忘れたり、計算が出来ないなどが見られる。又、お金を持つことによって、物盗られ妄想などの訴えがある為、所持されていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自らが電話出来ない為、希望があればスタッフが電話をして取り次いでいる。手紙のやり取りはスタッフが声かけするが、書けないと拒否がある為、していない。相手から手紙が来た場合は、スタッフが電話をかけ、本人に代わっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動線を安全に確保し、リビングは快適に過ごして頂けるよう温度調節に気を配っている。トイレは異臭や汚染があれば、速やかに対処し不快感を与えない様になっている。台所は常にオープンにしておき、生活感を感じられるように工夫している。	リビング、ダイニング、キッチンは一フロアにあり、採光は十分である。キッチンでの調理の音や匂いが五感を刺激している。テーブルやソファで利用者がそれぞれに制作に取り組んだり、テレビを觀賞したり、思い思いに過ごす様子が窺える。花や掲示物で季節感を取り入れ、清掃は職員が毎日行い快適な環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング二か所にソファを置き、一か所は、独りになれるような配置にしておき、もう一か所は皆さんで自由にくつろげるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、使い慣れた寝具類、テレビ、家具、置物など、本人や家族と相談して、居心地よく安心して過ごしていただけるよう、声かけをし持参していただいている。	居室はフローリングに畳のスペースがあり、座ったり、寝転んだり家族と団欒するなど活用している。ベッドが基本だが、状態により床に布団の利用者もいる。持ち込みの制限はなく、馴染みの小物やテーブルなどで落ち着いた居室となっている。清掃や空調は職員が行い、居心地のよい居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全利用者様の居室ドアにネームプレートを掛け、自分の部屋を間違わない様にしている。トイレ、風呂場へ迷わない様に表示している。手すりに物を掛けたり、歩行の妨げになるような物を置かないよう徹底している。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271500995		
法人名	有限会社 泰葉		
事業所名	グループホーム 泰葉 B棟		
所在地	長崎県佐世保市江迎町北平6-1		
自己評価作成日	令和元年 5月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも掲げているように、家庭的な雰囲気や毎日を過ごして頂けるよう、利用者様のリクエストを伺いながら旬の材料を用いてその日の献立をたてる等、利用者様に喜んでいただけるよう対応し提供している。楽しく温もりのある支援を心掛けている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が当事業所の理念を理解し、共通の認識の下に実践に繋げているが、理解が不足していると感じられた場合には互いにアドバイスをし合うなどサービスの向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域主催の100才体操参加、地域保育園児や地域住民の方々の慰問等積極的に交流している。また、災害・火災の避難訓練実施時には地域の婦人部の方々に様々な手助けをして頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて意見交換をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加者のご意見アドバイスをケアに反映実践できるよう職員で話し合い、サービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に職員手作りの泰葉便りを発行し、日々の様子を伝えている。それを通じて当事業所の現状やケアサービスの取り組みについてご理解頂き密な協力関係を築けるよう努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、三か月に一度研修会を実施している。拘束をしているという認識はなくともそれに当たる場合もある為その都度指摘し、日々のケアの中での事例を研修会の中で話し合い全職員で身体拘束をしないケアの実践に向けて努力している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会に積極的に参加しその内容を元に社内研修を行い、事業所一体となって虐待の防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加する等、対応できるよう準備しているが、現在迄活用した実績はない。状況に応じて対応できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様に理解して頂く事が難しい場合には、御家族様に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に面会時に要望等を聞き取り運営会議を通じ発信している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見あれば迅速に対応している。また、月に一度実施しているケア会議の中で職員が意見を出し提案することによって反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々のスキルアップ・長期的な雇用に繋がるような給与水準を設けている。事前に個々の公休の希望を取りシフト調整にも柔軟に対応、働き易い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のケアの力量を把握した上で、研修会・講習会への参加を案内している。参加希望の際はシフトを調整する・時間に応じて給与を支給する等全面的にサポートしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会への参加時、または、他の会合等で交流の場を持ちネットワーク作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階においても傾聴することを心掛け、本人の意思意向に沿ったサービス導入を目指し、安心を確保できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等との信頼関係においても傾聴することを第一とし、些細な事でもすぐにご相談頂けるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族等との会話、これまでの記録等を元にミーティングを行い、今必要をされる支援を見極めより良い方法について案を出し合い検討対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする中で、おはようございます・お疲れ様・ありがとう等挨拶を交わすことを大切に、互いに労い感謝できるような関係を築くことに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にし、相談し同意を得ながら意向をケアに反映させる事で、共に支えているという意識をもてるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に訪ねて頂ける雰囲気作りを心掛け、馴染みの人や場所などを本人との日常会話の中に織り交ぜ関係継続に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握し、それぞれが関わり易いような自席の配置等している、孤立を招くような大きなトラブルがないよう気配り目配りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は、家族に連絡を入れ様子を聞くなどしています。その中で相談などあれば、支援できるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴し会話を大切にしながら、その中で知り得た本人の思いや意向を把握している。困難な場合には検討実践を重ね、本人本位のよりよいケアに向け把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介先からの情報提供、本人・家族の情報を基に全職員が把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を考慮しつつ、有する機能を十分に発揮できるような環境とサービスの提供を目指し、一人ひとりの様子をよく観察することで現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・必要な関係者より意見を聞き話し合い、介護計画に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート等を活用し職員間で情報共有を図る。個別記録で詳細を確認し、よりよいケアサービスの提供に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況変化に伴い柔軟かつ臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方との交流は徐々に増えている。見守りが必要な方が増え、職員の余裕がない事もあり、外出の機会が少ない。今後のケアにおいて、検討する予定となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を聞き、納得を得た上でかかりつけ医を選択している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の利用者の些細な変化気づきを、その都度看護職に報告相談を行い、適切な看護が行えるよう支援、必要ならばかかりつけ医に上申している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と密に連絡をとり、情報を共有している。こまめに面会に行き状態観察を行い、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療体制が整っていない為、現在看取りはしていないが、家族・職員・かかりつけ医と話し合いながら、可能な範囲で支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が実践に備え身につけておく必要性を感じている。その為の訓練等は実施していない為、現在検討中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	毎月自主避難訓練を実施しており、消防署立会の避難訓練時には地域住民、家族との協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や性格・趣味・嗜好・現状を把握することで人格の尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに繋がると考え、全職員が把握に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情の変化等を考察し、会話やジェスチャーを交え本人の思いが表現できるよう促している。それが困難な方は、その方の立場に立ち思いを導けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合せ、穏やかにストレスなく過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髭そりなど定期的に行い、清潔で個人の意向に沿ったおしゃれや身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の力量に合わせて、下ごしらえ(野菜の皮むき等)下膳手伝い等、職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の嚥下機能状態・水分摂取量を把握し、食事支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを促し、困難な方は介助している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの尿意・便意を優先しているが、排泄の間隔が長い場合は声掛けをトイレへ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫・軽運動等に取り組み、自然な便通を目指しているが、個々の状態に応じて主治医に相談する等し便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングでの入浴が理想であるが、現在は決まった日に入浴している。入浴日以外は清拭を行い清潔保持、保湿剤を用いて皮膚の乾燥防止に努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のタイミングでいつでも休息できるようにしている。状態観察し、その方の状況に応じて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	未薬・誤薬を防止する為、名・日付・時間を読み上げ確認している。職員が服薬管理し、病状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	理容院、カラオケ、散歩、買い物支援等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩、職員宅の庭の散策(了解のもと)、家族の協力により毎週末の教会のミサへの参加と外出支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心感を得る方もいるため家族が渡される場合もあり、自ら所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族や友人に電話をしたりと関係が途絶えぬよう支援する用意はあるが、現在それを希望される方がいないのが現状である。こちら声掛けし促す事を検討したい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾物(塗り絵・ちぎり絵・折り紙等)利用者・職員で共同制作し、季節を感じとれるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの広さは十分ではないが、配置を工夫し長いソファを設置し寛げるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏具を持ち込む等、本人が居心地良く過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒を回避するため動線の安全を確保し、安全に生活が送れるよう工夫している。		